

京都市青少年活動推進協議会 平成20年度第1回専門委員会

1 日 時 平成20年8月19日(火) 午後6時30分～8時30分

2 場 所 ハートピア京都 第5会議室

3 出席者 佐々木 佳代(同志社女子大学名誉教授)
高谷 泰市 ((財)京都キリスト教青年会名誉主事)
山本 智也 (京都ノートルダム女子大学准教授)
遠藤 保子 (立命館大学産業社会学部教授・ユースサービス協会理事長)
小嶋 薫 ((財)京都市ユースサービス協会総務部長)
室矢 直人 ((財)大学コンソーシアム京都副事務局長)
革島 朋之 (少年サポートセンター所長)
有田 正義 (京都保護観察所長)
門田 志乃 (青少年委員)
坂部 昌明 (青少年委員)
関目六左衛門 (市立西京高等学校長(市立高等学校校長会))
丸岡 照幸 (市立音羽中学校長(市立中学校校長会))
岩田 直子 (市職員委員)

4 会議の概要

<報告>

- (1) 前回までの議事内容及び今後のスケジュールについて
- (2) 専門委員会タスクチームにおける検討状況について

<議題>

- (1) 京都市ユースアクションプランの推進状況について

基本方針2「新たな世紀で生きる力と創造性の開発」

- 2-1 国際的な視野を培う機会の充実
- 2-2 高度情報通信社会に対応した学習の推進
- 2-3 人権感覚豊かな青少年を育む施策の推進
- 2-4 環境学習の推進

- 推進施策
- 11 多文化共生社会の実現に向けた取組の推進
 - 12 高度情報通信社会に対応した学習の推進
 - 13 人権教育の推進
 - 14 男女共同参画を進める取組の推進
 - 15 子どもの権利擁護の推進<重点施策>
 - 16 長寿社会に対応した福祉教育の推進
 - 17 障害のある人に対する理解を深める取組の推進
 - 18 環境学習事業の推進
 - 19 自然と触れ合える野外活動の推進

5 会議で出された意見(要旨)

- (1) 推進施策の評価手法について

- ・現在タスクチームで検証しているモデルケースの評価手法に従って、他の推進施策も評価すべきではないか。
- ・タスクチームで検討している評価基準をそのまま全局の事業に適用するのは難しい。専門委員会では、まずは青少年活動センター事業について評価手法を確立し、モデルとして提示し、使ってはどうか。

(2) 推進施策の取組状況報告について

- ・取組状況報告に参加者数などの取組状況の詳しい記載がないと、一律に評価するのが難しい。
- ・ユースアクションプランでは、事業評価を行うには、「参加した青少年の意見」、「運営に携わった青少年の意見」、それを踏まえた「青少年の評価」が必要であるとしているので、取組状況報告書にそれらを記載する必要がある。
- ・20年度以降の取組状況報告の書き方をどうするかということをこの専門委員会で提言すればよいのではないかな。

(3) 推進施策の平成19年度取組状況に対する意見

- ・国際理解教育については、途上国の人たちの文化理解というのが不十分である。また、国際交流の推進は、一過性ではなく連続性のあるプログラムの開発が必要である。
- ・国際交流会館だけでなく、JICAとの連携も視野に入れるとともに、外務省の「国際理解教育コンクール」で紹介されているような新たな素材を用いながら、京都の国際理解教育に新しい流れを作れるようなプログラムができたらよいと思う。
- ・全体的に、行政がすべてをやらなければいけないという感じがあり、依然としてイベント主義のところがある。ボランティア活動や市民活動の促進・活性化のための行政のコーディネートの方が重要となってきた。
- ・男女共同参画などの意識啓発には、イベントなどの啓発的なプログラムだけで推進するのは難しいところがある。青少年事業にかかわるスタッフの意識の向上、徹底が必要である。
- ・類似事業の統合について検討が必要ではないかな。